

困難を有する子ども・若者の支援について

◆ 困難を有する子ども・若者とは？

「人間関係が築けない。」「離職や転職をくり返す。」「ひきこもっている。」など、「何らかの問題を抱えているのではないか？」「漠然と、困っているのではないか？」という状況を、「社会生活を円滑に営む上で困難を有する」という表現をしています。

このような困難を有する人の中には

- コミュニケーションが苦手で、得意・不得意分野が極端（自閉症スペクトラム※）
- 鬱やパニック障害、統合失調症などの病気を発症している
- 社会経験の不足、知識の不足
- 不遇な環境や経験

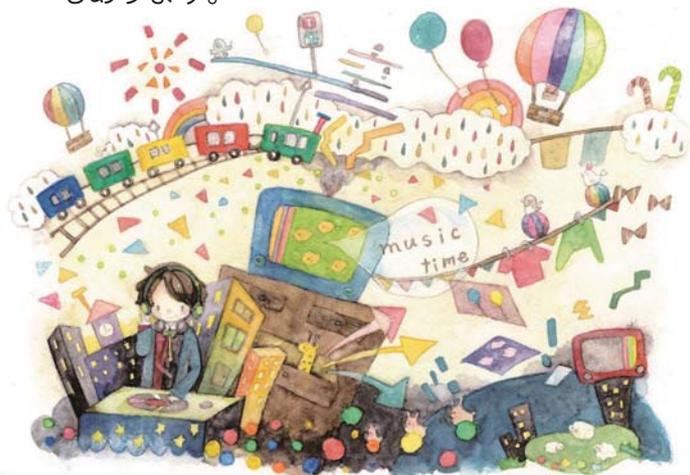
などの問題を抱えている方がいます。

※ 自閉症スペクトラム

発達に偏りがあり、コミュニケーションが苦手であったり、言葉での意思疎通が難しい、こだわり行動がある一方、単調な作業が得意で、素晴らしい能力を発揮される場合も多いです。

◆ 復帰しづらい社会構造

上記のような困難を有する人に限らず、社会状況により仕事に就けなかった人や、病気や子育て・介護などにより仕事を離れた人が、社会復帰できず、その結果困難な状況に陥ってしまうことがあります。いろいろな困難に直面した結果、ひきこもってしまうこともあります。



◆ 奈良県の取り組み

◇ 居場所・訪問支援の委託

県では、ニート・ひきこもりの若者の社会参加を促すため、「居場所」としての支援を複数団体に委託しています。また、ひきこもりの長期化防止のため、訪問支援を委託しています。

◇ 支援機関ガイド

困難を有する若者に必要な支援は様々です。そのため、青少年・生涯学習課では、支援機関ガイドを作成しました。

青少年・生涯学習課のHPにも、掲載しています。下記URLからご覧になれます。

<http://www.pref.nara.jp/31400.htm>

◆ 支援は身近なところから

いろいろな機関・団体が困難を有する若者を支援していますが、社会復帰が可能な状態に回復しても、就労が難しい状況になっています。もし、本誌をお読みの方で、雇用をはじめ、研修や職場体験の受入などの支援をいただけるかたがおられましたら、嬉しく思います。

【お問い合わせ先】

奈良県青少年・生涯学習課

TEL：0742-27-8608

（ダイヤルイン）

レビュー ◆ 本の紹介 ◆

1985年の奇跡

五十嵐 貴久・著 双葉文庫

1985年、とある高校を舞台に、弱小野球部の部員たちが巻き起こす奇跡を描く。「本気になるのは、かっこ悪い……？」

本気で取り組むのは素晴らしいことだと分かってはいるけれど、失敗したときに傷つかないための言い訳に、また、照れくささの裏返しで自分自身ときちんと向き合えなかった、そんな主人公たちが、それぞれに抱える悩みや問題に勇気を持って向き合う姿に、きっと共感できる一冊。

